

製品名: IL-1 α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12528**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	IL1A
別名	IL1A; IL1F1; Interleukin-1 alpha; IL-1 alpha; Hematopoietin-1
遺伝子 ID	3552.0
SwissProt ID	P01583
免疫原	抗血清はヒト IL-1 α 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 8-57

背景

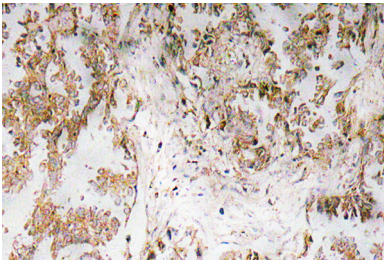
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、インターロイキン 1 サイトカインファミリーのメンバーです。このサイトカインは、様々な免疫応答、炎症プロセス、および造血に関与する多面的サイトカインです。このサイトカインは単球およびマクロファージ

ジによってプロタンパク質として産生され、細胞傷害に反応してタンパク質分解を受けて放出され、アポトーシスを誘導します。この遺伝子と他の8つのインターロイキン1ファミリー遺伝子は、2番染色体上にサイトカイン遺伝子クラスターを形成します。これらの遺伝子の多型は、関節リウマチおよびアルツハイマー病と関連していることが示唆されています。 [RefSeq 提供、2008年7月],ドメイン:IL-1 前駆体間の類似性は、これらのタンパク質のアミノ末端が、まだ定義されていない何らかの機能を果たしていることを示唆しています。機能:活性化マクロファージによって産生される IL-1 は、IL-2 の放出、B 細胞の成熟と増殖、および線維芽細胞増殖因子の活性を誘導することにより、胸腺細胞の増殖を刺激します。 IL-1 タンパク質は炎症反応に関与し、内因性発熱物質として同定されており、滑膜細胞からのプロスタグランジンとコラーゲナーゼの放出を刺激することが報告されている。、オンライン情報:インターロイキン-1 エントリ,オンライン情報:シンガポールヒト変異および多型データベース,類似性:IL-1 ファミリーに属する。、細胞内局在:前駆体配列に特定の疎水性セグメントが欠如していることから、IL-1 は損傷細胞から放出されるか、他の分泌タンパク質とは異なるメカニズムで分泌されることが示唆される。、サブユニット:モノマー。、

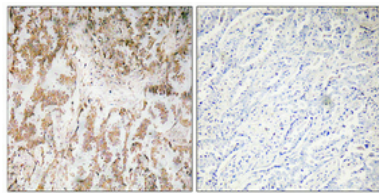
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;アポトーシス_Inhibition;ミトコンドリアのアポトーシス;アポトーシス_Overview;造血細胞系統;I 型糖尿病;プリオン病;移植片対宿主病;

画像データ



パラフィン包埋ヒト肺癌組織における IL-1 α 抗体の免疫組織化学分析。



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。